県企画「企業向けインターンシップ伴走支援」について

1　目的

インターンシップは、学生と企業のミスマッチを減らし、内定辞退の抑制に寄与※1しているほか、良い印象を持ったインターンシップ先企業で働きたいと感じる学生は7割を超えるなど※2、就職活動における有効な手段として重要性が高まっている。一方で、県内中小ものづくり企業の中には、インターンシップの必要性を認識しながらも、導入に踏み出せていない企業や、オープンカンパニーの実施に留まっている企業が多数存在する。

インターンシップの専門家を交えた複数回のワークショップを通じ、インターンシッププログラムを作成し、インターンシップの実施企業を増やす。さらに、企業間で横展開し、インターンシップ実施に係る機運を醸成することで、大卒人材の県内就職や県内定着につなげることを目指す。

※1)R7.10.19 付け日本経済新聞　／　※2)マイナビ 2026 年卒大学生広報活動開始前の活動調査

2　概要

(1)時　　期:令和8年6月～令和9年2月

(2)対象企業:県内ものづくり企業

※各社2～3名(幹部、人事担当、現場社員)を想定

(3)内　　容:実施時期については別紙「スケジュール」のとおり

①　ワークショップの実施 ・時期:6月15(月) ・時間:2時間 ・インターンシッププログラム(以降、「プログラム」と記載)の立て方について講演 ・プログラムの設計
②　各社でプログラムを計画 ・冬季インターンシップ(12～2月)の実施を目指し、タイプ3(5日以上)のプログラムを作成
③　プログラムのブラッシュアップ ・今永先生とオンラインで打合せ(30 分～1時間程度)をし、プログラムをブラッシュアップする。
④　企業同士でブラッシュアップ【中間発表会】 ・5社ずつくらいでプログラムを共有し、意見を言い合う。 ・可能であれば、(意見を言える)学生を呼び、学生目線の意見を取り込む。
⑤　プログラム発表会 ・学生、大学関係者を呼び、プログラムに意見(コメント)をもらう。 ・学生とのインターンシップのマッチングもできると良い。
⑥　インターンシップの募集 ・4大学を中心に声掛け
⑦　インターンシップの実践
⑧　振り返り ・参加企業以外の企業にも参加を促し、プログラムの横展開を図る。